

写真番号	タイトル	画像	説明文
B001	サンタクルス飛行場		サンタクルス市は人口約7万2,000の都市で、ポリビアの高原地帯と熱帯低地の中間にあるユングスと呼ばれる溪谷地帯に位置し、この地域の交通網の中心地である。
B002	サンファン移住地の造成(1)		ユングス地帯の低地部に位置するサンファン移住地は、年間20度C前後の温暖な気候にめぐまれ、肥沃な土壌とあいまってポリビアの穀倉地帯である。
B003	サンファン移住地の造成(2)		ブルドーザーで原始林を伐り開いて荒道が造られ、グレーダーで仕上げが行なわれる。出来上がった道路は定期的に路面補修がなされる。
B004	伐採		オーチョと呼ばれる大木で、根幹が隆起し、樹高は30mにも及ぶ。伐採はヤグラを組んで比較的細い部分をねらって斧を入れる。入植初期の移住者の中には、どこから切り出したらよいか、根っこの周りを廻っているうちに日が暮れたこともあるという。
B005	山焼		伐採後約1ヶ月前後乾燥して山焼する。山焼の良、不良がその年の営農成績の大部分に影響する。
B006	柑橘畑の間作		サンファン移住地の主なる作物は水・陸稲、大豆、柑橘等であるが、まだ完全に機械化されていないので農作業は仲々大変である。

写真番号	タイトル	画像	説明文
B007	野菜畑		<p>殆どどの農家では1ヘクタール程度を各種の野菜類、果物、畜舎等にあて、日常の食料の殆どを自給している。</p>
B008	大豆畑		<p>最近では漸次機械化農業への転換に努力が払われている。写真の大豆栽培には機械化農業が行なわれている。</p>
B009	パインアップル		<p>サンファン移住地は最近パインアップルの栽培も盛んで、自家消費の他はサンタクルス、コチャバンバ市等に出荷される。パインアップルの葉の先端が尖っているので除草は仲々大変である。</p>
B010	緑肥作物		<p>永年作物畑は土壌保全、雑草の防御、緑肥の効果等をねらってムクナ(緑肥作物の一種)と呼ばれる被覆作物が植付けられる。</p>
B011	養鶏		<p>最近卵の需要の増大、ブロイラーの開発等から養鶏熱が盛んになり、移住地内にも養鶏同好会が組織され、白色レグホン、ニューハンプシャーが飼育されている。この他にアヒル、七面鳥等も大量に飼われ、養鶏の基礎がための研究が行なわれている。</p>
B012	養鶏		<p>最近卵の需要の増大、ブロイラーの開発等から養鶏熱が盛んになり、移住地内にも養鶏同好会が組織され、白色レグホン、ニューハンプシャーが飼育されている。この他にアヒル、七面鳥等も大量に飼われ、養鶏の基礎がための研究が行なわれている。</p>

写真番号

タイトル

画像

説明文

B013	養豚		<p>養豚は農家経営にとって重要な地位を占めている。ポリビアにおける豚脂の需要は鉱山労働者を控えている関係で年間莫大な量が消費される。また一方ではサラミ、ハム、ソーセージ等の加工品の需要も増えつつあり、サンファン移住地でもポーランド・チャイナ種を導入、養豚に力を入れている。</p>
B014	牧畜		<p>永年作物、短期作物、家畜の導入等多角的経営が最近の移住地には要求され、サンファン移住地も養鶏、養豚に加えて大家畜が導入されている。</p>
B015	住宅		<p>入植3～4年間は気候の関係もあって掘立形式の住宅が多かったが、最近では煉瓦の本建築住宅がポツポツ建てられるようになった。</p>
B016	朝食		<p>一家揃っての朝食、パンとコーヒー、果物が普通である。が、バナナだけはだんだん嫌になってくる。</p>
B017	マイスの脱粒		<p>マイス(トウモロコシ)は入植当初の焼畑に、また比較的栽培しやすいことなどから相当面積がつくられるが、年を追って少なくなり殆んどが家畜の飼料になっている。</p>
B018	精米		<p>この移住地における短期作物の主体は稲作で大量の米が生産されている。自家用の精米は写真程度の日本から持参したもので行なうが、販売用には農協の大型精米機で共同精米する。</p>

写真番号

タイトル

画像

説明文

BO19	出荷		<p>精米がおわるとボルサ(袋)に詰められサンタクルスにある倉庫に搬出し、ここで販売される。米の値段は日本と違って一定していないので、販売時期にはとくに神経をつかう。</p>
BO20	醤油の製造		<p>日本人の食事にはどうしても味噌と醤油は欠かせないものらしく味噌は多くの農家で自家醸造されているが、醤油はどうしても醤油屋さんの世話になる。原料は移住地産の大豆が使用されている。最近ではボリビア人労働者も醤油の味を覚え始めたようである。</p>
BO21	製材		<p>移住地センターの近くにある共同製材所、原木は移住地内にある原生のマラ・オーチョ、アマリリヨ等の用材を伐り出して製材し高原にある都市に出荷し販売する。</p>
BO22	中学校		<p>中学校は移住地のセンターにあつて、寄宿舎、食堂、電気施設などが完備している。また運動場はぜいたくな程広い。</p>
BO23	授業		<p>移住地の学校には種々の教材が不足しているがそれでも生徒は一生懸命勉強している。最近ではスペイン語による先生の話もよく理解できるようになっている。</p>
BO24	サンファン祭り		<p>毎年行なわれるサンファン祭りは全移住者が総出でセンターにある中学校の庭で行なわれる。部落単位の出し物はサンファンの名物になっている。</p>

写真番号

タイトル

画像

説明文

BO25	講習会		<p>サン・ファン移住地には青年会が組織され、機関紙やヤパカニ誌の発行や各種の研究会、講習会等が定期的に行われている。</p>
BO26	中学校の職員室		<p>移住地における学校の先生は学生に教えるだけでなく、時には講習会の先生にもなる。この先生達も日本人に教える立場になると日本を真剣に理解しようと努めて勉強している。</p>
BO27	図書閲覧室		<p>農協内に設置されている図書室には月おくれではあるが日本の書籍が揃えられている。閲覧する本の種類も年齢によって差はあるがやはり雑誌類に人気が集まる。</p>
BO28	記念撮影		<p>移住地の結婚式は年をおって洋式になってきた。入植当初は新婚旅行など思いもなかったが、最近ではコチャバンバやラパスに2泊3日程度の旅行が飛行機で行なわれるようになった。この青年達も花嫁不足で困っている。</p>
BO29	ダンスパーティ		<p>2月から3月に行なわれる復活祭のうち1日間、サンファン移住地でも楽しいカルナバルが催される。この日の青年男女はボレロやタキラリーの音楽によって夜を徹して踊りまくる。ここからまた新しいカップルが生まれるだろう。</p>
BO30	マーじゃん		<p>中国に生まれたマーじゃんは日本の裏側のポリビアでも大手をふって歩いている。移住地で行なわれるマーじゃんはノーベルランプが一方から照らされるので反対側は薄暗く、場所が決った時には半ば勝負がつくといわれる。それでも娯楽の少ない移住地では楽しいひと時である。</p>

写真番号	タイトル	画像	説明文
BO31	診療所		<p>移住地のセンターには診療所が開設されており、日本から派遣された医師が診療にあたっている。ここにはレントゲン設備、手術設備、歯科器具や診療車が配置されている。</p>
BO32	女医さん		<p>この診療所の歯医者さんは、ボリビアの美人女医で治療ばかりでなく人気がある。</p>
BO33	看護婦		<p>診療所の看護婦さんを養成するためサンタクルス市にある公立病院で勉強している。来年あたりはサンフアン診療所で働くことになるだろう。</p>
BO34	公立病院		<p>大病人はサンタクルス市内にある公立病院で治療をうける。ここには日本人の見習看護婦がおり、病気の世話から通訳もかねてくれる。</p>
BO35	オーム		<p>畑仕事の後にはひと休み。飼い馴し、色々の芸を教えこむと物マネや留守番もするようになる。この他に猿やナマケモノ、野豚、穴熊、ワニ、オオガメ等を飼って庭先を動物園のようにして楽しんでいる人もいる。</p>